

令和6年度事業報告

昨年度は、第39回全国大会を5月22日に自由民主党本部の8F大ホールにおいて、新型コロナウイルスは令和5年5月8日に感染症法の2類相当から季節性インフルエンザ並みの5類に移行されたが、その5月から令和6年4月までの1年間で3万2千名(季節性インフルエンザでの死亡者は年間約2千名)の方が亡くなっていることから完全に終息したことではなく、移行後も感染者が増加していることから、感染予防としてマスクの着用と密を避けるため、540名定員の会場に参加者170名(来賓を含め270名)に限定して実施した。

来賓あいさつでは、自由民主党を代表して副総裁で衆議院議員の麻生太郎さん、党の「差別問題に関する特命委員会」の委員長で衆議院議員の山口壯さん、全国隣保館連絡協議会の窪田幸美・会長、(一社)LGBT理解増進会の繁内幸治さんの4名からごあいさつをいただいた。

今大会での記念講演は、作家の森奈津子さんが「LGBT理解増進法について」～女性スペースに変化はあったか～のテーマで講演された。

議事では、令和5年度の運動方針など、すべての議案を滞りなく承認した。

11月には、関係各省庁に毎年実施している定期中央省庁要請行動(法務省、文部科学省、厚生労働省、国土交通省)を行い、同和問題の早期完全解決に向け令和7年度の人権関係予算の拡充を要請するとともに、「人権擁護法案」の早期成立への協力を要請した。

毎年開催している幹部研修会は、新型コロナウイルスが完全に終息していないことから、毎年実施している自由民主党の9F901会議室ではなく、万全な感染対策を行える全国大会を開催した8F大ホールに参加者を180名に限定して開催した。

来賓あいさつは、感染対策として自由民主党を代表しての組織運動本部長・小渕優子衆議院議員1名だけとし、「人権会議」の同志である(公社)全国人権教育研究協議会と全国隣保館連絡協議会についてはメッセージの朗読にした。

研修会はこれまでは複数の講師を招きシンポジウムを行っていたが今回は講演にし、テーマ「変貌する京都・崇仁」～京都市立芸術大学の移転で、どう変化したのか～として、

選考採用の京都市職員の不祥事が多発する中で、同和行政の見直しに辣腕を振るわれた元京都市人権文化推進担当部長の淀野実さんから、芸術大学を三大部落の一つである崇仁に移転したことで、同和問題の解決へ大きな力になることを確信すると話された。

全国大会と幹部研修会は、いずれもインターネットのYouTubeで、開会から閉会までの全日程をLive中継するとともに、その中継の録画を自由同和会中央本部のホームページ上に載せ、Live中継を見逃した人でも視聴できるようにしたことをお知らせし、令和6年度の事業報告にする。